

ドイツ文化論 ( German Culture I ) [ Deutsche Kultur I ]		専攻科 1 年・前期・2 単位・選択 機械制御工学専攻・電子情報工学専攻・ 化学工学専攻・ 担当 桐川 修
[ 準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標 ]	[ システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標 ]  A - 1 ( 7 0 % )、C - 2 ( 3 0 % )	[ JABEE 基準 ]  a, f
[ 講義の目的 ] EU ( European Union, Europäische Union, Union européenne, 欧州連合) を構成する 27 カ国のうち、ドイツは人口においても、また経済の面でも最大の地位を占めています。明治以来、日本はドイツ(プロイセン)を手本として急速な工業化の道を歩み始め、今日の近代的な日本国家を築き上げました。ちなみに昨年は日独交流が始まって 150 周年目にあたり、両国でさまざまなイベントが開催されました。今年度の「ドイツ文化論」では、いくつかの文化的側面から現代のドイツと日本とを比較することによって、ドイツ文化に対する理解を深めたいと思います。		
[ 講義の概要 ] 『市民生活』、『環境問題』、『教育』、『歴史認識』の 4 つのテーマで、現代のドイツについて書かれた文献(主に日本語)を読み、日本との比較を考察したレポートの提出を求めます。		
[ 履修上の留意点 ] 各自の主眼的取り組みを重視します。提出物だけでなく、取り組みの姿勢についても評価します。また基本的にドイツ語の知識は前提とはしていません。		
[ 到達目標 ] ・現代ドイツの実情を理解すること。 ・現代のドイツと日本の文化的相違点を理解すること。		
[ 評価方法 ] 提出物 ( 5 0 % )、授業での取り組み・積極性 [ 発言の有無、回数 ] ( 5 0 % )		
[ 教科書・補助教材・参考書 ] 教科書は使用しません。また参考文献および参考となるホームページなどについてはその都度授業中に指示します。		
[ 関連科目・学習指針 ]  日頃よりドイツだけでなくヨーロッパ文化全般に興味をもっていて欲しい。もちろん、後期開講の『ドイツ文化論』とは大いに関連があります。		

## 講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	ガイダンス	講義の目的・概要等を説明し、半年間の予定を説明する。	
第2週	市民生活(1)	ドイツの市民生活に関する文献購読。	
第3週	市民生活(2)	ドイツの市民生活に関する文献購読。	
第4週	市民生活(3)	日本との比較に基づくレポート作成。	
第5週	環境問題(1)	ドイツの環境問題に関する文献購読。	
第6週	環境問題(2)	ドイツの環境問題に関する文献購読。	
第7週	環境問題(3)	日本との比較に基づくレポート作成。	
第8週	教育(1)	ドイツの教育に関する文献購読。	
第9週	教育(2)	ドイツの教育に関する文献購読。	
第10週	教育(3)	日本との比較に基づくレポート作成。	
第11週	歴史認識(1)	ドイツの歴史認識に関する文献購読。	
第12週	歴史認識(2)	ドイツの歴史認識に関する文献購読。	
第13週	歴史認識(3)	日本との比較に基づくレポート作成。	
第14週	まとめ(1)	4つのテーマについて共通する要素の検討。	
第15週	まとめ(2)	講義全般についての討論。	

\* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.  
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)